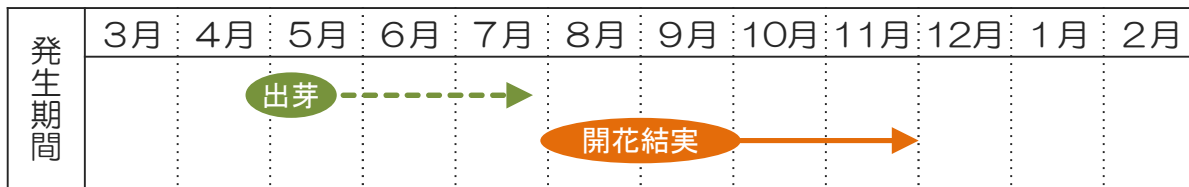


ツユクサ

ツユクサ科，一年生



道ばたや畦畔などに普通に見られ，水田・畑両方で発生する。日陰でも生育できるので，大豆の下でも旺盛に生育する。近年，本県において，連作ほ場で蔓延して問題となっている。



形態的特徴	葉には光沢があり，平行脈が目立つ。茎は地際で多く分枝し，節からも根が出る。青い花を咲かせる。
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・種子が大きく，深くから出芽できる。 ・種子は湛水条件でも3年以上生存する。 ・耕起などで分断されても，節から根を出して再生する。
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌処理剤：効果は一般に低い，ラクサー乳剤・粒剤(特に高薬量)の効果が比較的高い。 ・大豆バサグラン液剤・アタックショット乳剤：効果はほぼない。 ・畦間・株間処理：非選択性除草剤では，ジクワット・パラコート>グリグルホシネート系>グリホサート系の順で効果がある。
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆作付前不耕起処理により，当年産の種子を早期に出芽させる。(4月下旬～5月に出芽する傾向がある) ・大豆播種前湛水処理により，種子を斉一に出芽させる。 ・晩播(7月上旬)にすると発生は非常に少なくなる。 ・中耕培土を確実にを行う。